

平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年10月31日

上場会社名 石垣食品株式会社
 コード番号 2901 URL <http://www.ishigakifoods.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石垣 裕義
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部経理課 課長 (氏名) 小西 一幸
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-3263-4444

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|-------------|-----|-------|------|---|------|---|------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 29年3月期第2四半期 | 240 | △5.7 | △28 | — | △30 | — | △30 | — |
| 28年3月期第2四半期 | 254 | △15.6 | △36 | — | △35 | — | △36 | — |

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 △28百万円 (—%) 28年3月期第2四半期 △35百万円 (—%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年3月期第2四半期 | △8.94 | — |
| 28年3月期第2四半期 | △10.63 | — |

(注) 持分法投資損益 29年3月期第2四半期 — 百万円 28年3月期第2四半期 — 百万円

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|-----|-----|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 29年3月期第2四半期 | 242 | 64 | 26.6 | 19.05 |
| 28年3月期 | 239 | 93 | 38.9 | 27.45 |

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 64百万円 28年3月期 93百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 28年3月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 29年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 29年3月期(予想) | — | — | — | 0.00 | 0.00 |

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|-----|-----|------|---|------|---|-----------------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 485 | 7.4 | △30 | — | △31 | — | △31 | — | △9.43 |

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、3ページ【2. サマリー情報(その他)に関する事項】(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示、(3) 追加情報をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|----------|-------------|--------|-------------|
| 29年3月期2Q | 3,390,000 株 | 28年3月期 | 3,390,000 株 |
|----------|-------------|--------|-------------|

② 期末自己株式数

| | | | |
|----------|---------|--------|---------|
| 29年3月期2Q | 1,779 株 | 28年3月期 | 1,779 株 |
|----------|---------|--------|---------|

③ 期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|----------|-------------|----------|-------------|
| 29年3月期2Q | 3,388,221 株 | 28年3月期2Q | 3,388,221 株 |
|----------|-------------|----------|-------------|

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中です。
 なお、この四半期決算短信は、同レビュー手続の対象外であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確実な要素を含んでおります。
 実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 2 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 3 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 3 |
| (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 3 |
| (3) 追加情報 | 3 |
| 3. 継続企業の前提に関する重要事象等 | 3 |
| 4. 四半期連結財務諸表 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高240百万円(前年同四半期比5.7%減)、営業損失28百万円(前年同四半期は営業損失36百万円)、経常損失30百万円(前年同四半期は経常損失35百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失30百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失36百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 飲料事業

主力製品の麦茶は、最盛期である夏季に大幅な増収を目指して、販売促進活動に励みました。その結果、限られた時期や店舗においては増収が見られたものの、全般的には台風の直撃が続くなど天候が不順気味であったこと、競合他社によって市場競争が更に過熱したこと、一部の大手スーパーマーケットチェーンでの取扱いが無くなったことについて影響が大きかったことから、むしろ減収に終わりました。

損益面においても、減収に伴う工場稼働率の低下から減益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高115百万円(前年同四半期比12.8%減)、営業利益7百万円(前年同四半期比55.4%減)となりました。

② 珍味事業

ビーフジャーキーは、OEM商品については新商材を投入したことから大幅な増収となりました。しかし、自社ブランド商品について、前期まで4年連続で行った値上げにより価格競争力が大幅に低下したこと、前期に行った商品の統廃合やリニューアルなどラインナップの再構築が失敗に終わったこと、塩レモン風味など新商品の投入が不発に終わったことなどから大幅な減収となってしまったため、珍味事業全体では微増に留まりました。

損益面においては、円安傾向や原料牛肉の価格高騰が一服したこと、原材料コストの上昇には歯止めがかかったものの、増収とならなかったことから、工場稼働率の低迷が続き、若干の営業利益の計上に留まりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高122百万円(前年同四半期比3.1%増)、営業利益0百万円(前年同四半期は営業損失12百万円)となりました。

③ その他

その他事業においては、業務用ナルト、だしのものととも減収となりましたが、委託加工事業であることから、堅調に利益を計上しました。

以上より、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1百万円(前年同四半期比36.4%減)、営業利益0百万円(前年同四半期比42.8%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、主に受取手形及び売掛金の増加及び短期借入金の増加等により、総資産は242百万円(前連結会計年度末は239百万円)、負債は177百万円(前連結会計年度末は146百万円)となりました。純資産は主に親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により64百万円(前連結会計年度末は93百万円)となり、自己資本比率は26.6%(前連結会計年度末は38.9%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、現時点では平成28年10月20日発表の当社「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の内容から修正はございません。業績に影響を与える事象が明らかになり次第、適宜お知らせいたします。

なお上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期において、重要な子会社の異動はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益への影響はありません。

(3) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで3期連続して営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、当第2四半期連結累計期間においても当該状況が続いていることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っております。

ビーフジャーキーについては、新商品の投入及び営業活動エリアを拡大して新規取扱先を開拓し拡販を図り工場稼働率を向上させることや、中国生産子会社が原料牛肉調達方法を継続的に見直すことによりコストダウンを図るなど、事業採算の改善に努めております。

麦茶の採算が天候要因によって左右されるのは避けられないとしても、既に主力商品の一翼に育ったごぼう茶の様に、当社グループの生産設備とノウハウを活かした新商品を開発・投入することで飲料事業全体の採算の平準化を図ってまいります。

また、これらの基本的施策に加え、効果の見込める事業者との事業提携についての交渉を進め、財務政策上必要であれば事業者との資本提携や、関係者による支援などを実施することを引き続き検討してまいります。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成28年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 44,506 | 38,919 |
| 受取手形及び売掛金 | 62,991 | 87,792 |
| 商品及び製品 | 42,074 | 25,441 |
| 原材料及び貯蔵品 | 22,600 | 28,157 |
| その他 | 1,734 | 2,258 |
| 貸倒引当金 | △0 | △0 |
| 流動資産合計 | 173,906 | 182,568 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 14,434 | 12,448 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 6,987 | 5,206 |
| 土地 | 13,807 | 13,807 |
| リース資産（純額） | 77 | 64 |
| 建設仮勘定 | 4,025 | 3,364 |
| その他（純額） | 761 | 457 |
| 有形固定資産合計 | 40,093 | 35,348 |
| 無形固定資産 | | |
| 借地権 | 12,883 | 10,624 |
| リース資産 | 0 | 0 |
| その他 | 331 | 597 |
| 無形固定資産合計 | 13,214 | 11,221 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 4,535 | 5,198 |
| その他 | 7,670 | 8,089 |
| 投資その他の資産合計 | 12,206 | 13,287 |
| 固定資産合計 | 65,514 | 59,857 |
| 資産合計 | 239,421 | 242,426 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成28年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 29,332 | 30,618 |
| 短期借入金 | - | 25,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 12,780 | 11,424 |
| リース債務 | 2,711 | 2,748 |
| 未払法人税等 | 1,043 | 1,073 |
| 賞与引当金 | 1,897 | 1,755 |
| 未払金 | 24,938 | 18,869 |
| その他 | 4,791 | 15,305 |
| 流動負債合計 | 77,495 | 106,795 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 65,203 | 68,576 |
| リース債務 | 3,257 | 1,874 |
| 繰延税金負債 | 431 | 636 |
| 固定負債合計 | 68,892 | 71,087 |
| 負債合計 | 146,387 | 177,882 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 300,000 | 300,000 |
| 資本剰余金 | 53,293 | 53,293 |
| 利益剰余金 | △273,621 | △303,912 |
| 自己株式 | △782 | △782 |
| 株主資本合計 | 78,889 | 48,597 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 959 | 1,416 |
| 為替換算調整勘定 | 13,184 | 14,529 |
| その他の包括利益累計額合計 | 14,144 | 15,946 |
| 純資産合計 | 93,033 | 64,544 |
| 負債純資産合計 | 239,421 | 242,426 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日) |
|---------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 売上高 | 254,630 | 240,160 |
| 売上原価 | 165,046 | 155,227 |
| 売上総利益 | 89,583 | 84,933 |
| 販売費及び一般管理費 | 126,150 | 113,567 |
| 営業損失(△) | △36,566 | △28,633 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 8 | 5 |
| 受取配当金 | 32 | 44 |
| 為替差益 | 1,430 | - |
| 雑収入 | - | 0 |
| 営業外収益合計 | 1,471 | 50 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 631 | 876 |
| 為替差損 | - | 536 |
| 雑損失 | 0 | 4 |
| 営業外費用合計 | 632 | 1,417 |
| 経常損失(△) | △35,726 | △30,001 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △35,726 | △30,001 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 290 | 290 |
| 法人税等合計 | 290 | 290 |
| 四半期純損失(△) | △36,016 | △30,291 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △36,016 | △30,291 |

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日) |
|-----------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 四半期純損失(△) | △36,016 | △30,291 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 169 | 456 |
| 為替換算調整勘定 | 689 | 1,345 |
| その他の包括利益合計 | 859 | 1,801 |
| 四半期包括利益 | △35,157 | △28,489 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △35,157 | △28,489 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | - | - |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度まで3期連続して営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、当第2四半期連結累計期間においても当該状況が続いていることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っております。

ビーフジャーキーについては、新商品の投入及び営業活動エリアを拡大して新規取扱先を開拓し拡販を図り工場稼働率を向上させることや、中国生産子会社が原料牛肉調達方法を継続的に見直すことによりコストダウンを図るなど、事業採算の改善に努めております。

麦茶の採算が天候要因によって左右されるのは避けられないとしても、既に主力商品の一翼に育ったごぼう茶の様に、当社グループの生産設備とノウハウを活かした新商品を開発・投入することで飲料事業全体の採算の平準化を図ってまいります。

また、これらの基本的施策に加え、効果の見込める事業者との事業提携についての交渉を進め、財務政策上必要であれば事業者との資本提携や、関係者による支援などを実施することを引き続き検討してまいります。

しかし、これらの施策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められません。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。